

再 評 価 書

事業名	松阪公園大口線外1線		事業区分	街路事業	室名	都市政策室
事業概要	工期 (下段:当初)	H14年度～H26年度	全体事業費 (下段:当初)	9,600百万円(負担率:国3/6:県2/6:市1/6)		
		H14年度～H21年度		8,400百万円(負担率:国3/6:県2/6:市1/6)		
事業目的及び内容						
<p>■ 当該路線の状況</p> <p>松阪公園大口線は、松阪市内中心市街地と国道42号及び23号を連絡する幹線道路として、JR紀勢本線・名松線、近鉄山田線の3線を跨いでいます。</p> <p>当該路線の沿線には、松阪市役所、松阪市民病院、JR松阪駅、近鉄松阪駅、松阪警察署、広域消防本部など多くの公共施設があり、沿線地域の生活に欠かせない道路であるとともに、伊勢自動車道松阪ICと国道42号を結ぶ緊急輸送道路に指定されており、大規模災害の発生時には、避難・救助、物資の供給、諸施設の復旧等の広範な救急に利用される重要な道路です。</p> <p>しかし、当該区間は、鉄道と平面交差しているため、慢性的に渋滞が発生しています。</p> <p>■ 事業目的</p> <p>鉄道交差の立体化により踏切を解消し、安全で円滑な交通の確保を図るとともに、緊急輸送道路の機能強化を図ります。</p> <p>■ 事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業計画期間 13年間(平成14年度～平成26年度) ・全体事業費 9,600百万円(工事費:5,501百万円、用地費:4,099百万円) ・計画延長 L=820m(起点)松阪市本町～(終点)松阪市鎌田町 ・幅員 16.0m(一般部) ・主要構造物 鉄道立体交差化(アンダーパス) 						
事業主体の再評価結果						
<p>1 再評価を行った理由</p> <p>事業採択後、一定期間(10年)が経過した時点で継続中の事業であるため。</p>						
<p>2 事業の進捗状況と今後の見込み</p> <p>2-1 事業の進捗状況</p> <p>① 平成22年度末の事業進捗率は、70%(工事50%、用地97%)となっています。</p> <p>② これまでに仮設道路を供用し、現在は鉄道立体交差化(アンダーパス)工事を実施しています。</p> <p>2-2 今後の見込み</p> <p>平成26年度の全線供用に向け事業を推進します。</p>						
<p>3 事業を巡る社会経済状況等の変化</p> <p>当該路線は、沿線地域の生活に欠かせない道路であるとともに、緊急輸送道路の指定を受けていることなどから、当該事業の必要性に変化はありません。</p>						

4 事業採択時の費用対効果分析の要因の変化

4-1 費用対効果分析

○ 事業区間全体の費用対効果分析の結果は、

走行時間短縮便益 82億円

走行経費減少便益 29億円

交通事故減少便益 5億円

総便益 116億円

総費用 106億円

費用便益比は、1.1となります。

○ 通行車両1台・1km当たりの換算コスト 48円/台・km

4-2 その他の効果

○ 住民の安全な暮らしの確保

鉄道を立体交差化することにより、踏切遮断が解消され、救急救命時における時間短縮と走行の安定性が図られ住民の安全な暮らしの確保に寄与します。

○ 地域住民の安全・安心の確保

渋滞を避け、生活道路に通過交通が流入しすれ違い困難で危険な状況ですが、鉄道を立体交差化することにより、生活道路への流入を防ぎ、地域住民の安全・安心の確保に寄与します。

5 コスト縮減の可能性や代替案立案の可能性

5-1 コスト縮減

新たな電気機器の導入による維持管理コストの低減を図ります。

5-2 代替案

事業の進捗状況及び費用対効果分析結果から、代替案はありません。

再評価の経緯

事業主体の対応方針

三重県公共事業再評価実施要綱第3条の視点を踏まえて再評価を行った結果、同要綱第5条1項に該当すると判断されるため当事業を継続したいと考えています。

位置図

